

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 福岡県

【学校名】 福岡県立玄界高等学校

【テーマ】 I II III **IV** V

- I オリンピズムの教育的価値
- II おもてなし精神とボランティア
- III パラリンピックと障害者スポーツ
- IV 日本文化と異文化・国際理解
- V スポーツを楽しむ心

【実践研究タイトル】

『異文化・国際理解およびスポーツ交流 』

～ 2020オリンピック・パラリンピックに向けて ～

【実施学年、部、講座等】

第1学年（男子7名・女子28名）

第2学年（男子13名・女子23名）

【目的・ねらい】

2020年に開催されるオリンピック・パラリンピックに向けての意識付け、および、グローバル社会に生きる一人として、東京オリ・パラ大会にどう絡んでいくかを考える。また、多国籍の生徒からなる国際文化コース生徒との交流を通し、異文化を理解する。さらに、フェンシングを通して、スポーツの楽しさを実感する。

【種類】（当てはまるものに○）

- ・各教科（ ） ・道徳 ・外国語活動 ・**総合的な学習の時間** ・特別活動
- ・教科以外での取組（ ）

【実践内容等】

（実施内容）

1. アンケート結果報告・「異文化・国際理解について」「オリンピックについて」

2. オリンピック講演・「2020東京五輪に絡む」

～ バルセロナ・アトランタオリンピック出場、市ヶ谷廣輝 氏（フェンシング） ～

市ヶ谷廣輝 氏（香川県三本松高校教諭）

- ・フェンシング（フルーレ）でバルセロナオリンピック出場、決勝トーナメント進出
- ・フェンシング（フルーレ）でアトランタオリンピック出場
- ・2005年ジュニア世界大会の日本代表総監督 幼少期の太田雄貴選手を指導

- ・オリンピックに出場したことは夢の舞台に立っているような感じだった。
- ・目標を高く持ち、自分はできると信じること。
- ・2020東京五輪にいろんな形でかかわっていきたい。
- ・自分の限界を決めず、何事にも取り組んでいくこと。



3. 異文化交流（自己紹介）

- ・多国籍の生徒が在籍する国際文化コースの生徒と交流する。
- ・それぞれの国の文化や風土について交流する。
- ・日本文化と他国の文化について比較し、それぞれの文化を尊重する。



日本と中国

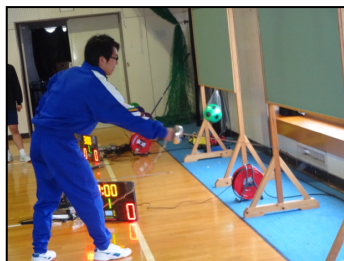


フィリピンと日本



日本と中国

4. フェンシング体験（スポーツ交流）



- ・グループに分かれ、フェンシングの的当てゲームを行う。
- ・初めて経験するスポーツの楽しさを体感する。

（実践上の工夫点、留意点等）

- ・オリンピック講演については、生徒が夢や希望を持てるような内容とした。
- ・アンケート結果については、国際問題等マイナスな内容がないよう配慮した。
- ・フェンシング体験については、怪我のないよう楽しむ内容に限定した。

（成果）

- 4年後の2020年に東京にて開催されるオリ・パラが、今後の人生に大きな影響を受けることを認識できた。
- オリンピック開催は、国際文化コースに所属している生徒ならではの「語学力」や「国際交流」を活かすことのできる絶好の機会であることを確認した。
- 生徒の感想文には「オリンピックがあることは、外国の方と交流を図ることで視野が広がったり、英会話を上達させることもできる。」など、前向きな考えが多かった。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題点】

- 新年度に向けての実施計画や内容を掲げ、年間（数回）を通した教育が必要である。
- 2020年まで継続的に実施するのであれば、4年間を見通した計画や立案が必要不可欠である。

